

WE21 ジャパン いずみ NEWS

2019・秋

地雷なき地球をめざして！

WE21 いずみは、今年度「地雷廃絶日本キャンペーン」に支援を決定し、先日、代表の清水俊弘さんの学習会を開催しました。



講師の清水俊弘代表

悪魔の兵器

地雷と聞いて目に浮かぶのは、カンボジアやアフガニスタンなどで足や手をなくした人の姿ではないでしょうか。遠い国の出来事と思っている人が多いと思いますが、地雷は「悪魔の兵器」と言われています。手のひらの小さなサイズ、しかも安価に作ることできたために、世界中で六千万個が埋められ、年間1〜2万人が被害を受けていました。現在は年間8千人。そして、被害の8割が女性や子どもたちです。

人道条約の成立

地雷は命を奪う（死）のではなく、大けがをさせるための兵器です。地雷により足や手を失えば、永久的にサポートが必要であり、日常生活も厳しくなります。働けないために経済的にも困窮となります。昨今は、地雷に代わりクラスター爆弾やペットボトルを使う簡易爆弾なども出回るようになりました。このような兵器を止めるために、地雷禁止国際キャンペーンが立ち上がり、日本のNGOも参加し、1997年に人道条約と言われている「対人地雷全面禁止条約 オタワ条約」が成立し、現在日本を含めた164か国が締結しました。残る主にアジア地域の韓国など32か国の批准が、今後の課題です。

地雷から平和を考える

一方、このような非人道的な兵器を作る資金は、私たちと関わっています。兵器を製造する企業に、私たちが貯金している銀行が融資をしているからです。市民による「投融資禁止キャンペーン」の運動により、民間金融機関のすべてが方向を転換しましたが、私たちの年金を運用している政府年金運用機関のみが、まだ兵器製造企業に融資をしています。

地雷のない世界を目指すこと、すなわちオタワ条約という人道的規範を世界中に周知させて実現することは、大きな挑戦です。そして、地雷を入り口にして愚かな紛争の犠牲者が誰であるか、平和構築はどうしたら実現するかを考えていきたいと思います。

理事 郡司真弓（



義足の支援により生活を再建した被害者たち

